



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3983号 2017.10.29 発行

スポーツの祭典へ、準備本格化＝東京五輪まで1000日

時事通信 2017年10月29日

2020年東京五輪の開幕まで、28日でちょうどあと1000日。夏季では1964年以来の自国開催となるスポーツの祭典に向け、ハードとソフト両面で準備が本格化してきた。大会のメイン会場となる新国立競技場は、既にスタンド部分などの工事が始まり、



19年11月末の完成を目指して工事を進めている。大会運営の準備状況や展望を紹介するとともに、メダル獲得への強化策などを探った。インタビューに答える2020年東京五輪・パラリンピック組織委員会の室伏広治スポーツ局長＝16日、東京都港区

◇Xゲームズなどと連携も＝室伏組織委スポーツ局長インタビュー

東京五輪は33競技339種目が実施され、会場もほぼ決まった。開幕まで1000日を切ると競技日程を固める段階に入り、大会へ向けた運営準備が本格化する。陸上男子ハンマー投げの五輪金メダリストで現在は大会組織委員会のスポーツ局長を務める室伏広治さん（43）に展望を聞いた。

－スポーツクライミングなど、新たな都市型競技をどう盛り上げるか。

若者や一般の方が体験できるコーナーを設けるなど、プレーしている選手と一体感を味わえるようなものを目指す。既存の競技とは雰囲気は全然違う演出になってくる。

－スケートボードなどストリート系競技の運営で、賞金大会のXゲームズなどとの連携は。

これまでの五輪にはない競技なので、運営面でも既にやっている大会は非常に参考になる。そういう（Xゲームズなどの）スタッフと接触したり、アドバイスを聞いたりしていくことは重要だ。

－新種目の3人制バスケットボール、自転車BMXフリースタイルの会場はまだ決まっていない。

年内に方向付けられればいいと思っている。

－競技日程は選手優先で組むと思うが、暑さ対策とのバランスは。

屋外競技やマラソンなど、基本的には暑い時間を避けるように調整していく。公共交通機関が動いていない時間帯だとボランティアやお客さんを運べないので、そういう調整は必要になる。

－マラソンは午前7時半開始の計画。暑さを避けるためスタートを早める可能性はあるか。

選手第一の観点で考えながら、スタッフや審判が行ける時間でなくてはいけない。（マラソンの暑さ対策は）基本的に時間の調整で行う。

－今夏の東京は雨が続いた。荒天の対策は。

試合をできない場合も何か楽しめるものを考えていく。波が小さくてサーフィンができ



ない時に、地元の方とビーチでイベントを企画するなど、競技だけでなく雰囲気も味わえるようにしたい。

ー野球は6チームの半数がメダルを獲得し、3勝で金メダルの可能性も。競技実施の意義は。

野球が復活したことが一番重要。追加競技は人数、日程の制限がかなり厳しく、通常の世界選手権などと実施規模が違うのは野球だけではない。

名所のタワーブリッジ前に設置され、ライトアップされた五輪のオブジェ＝2012年7月、ロンドン

◇五輪効果、ロンドンに学ぶ東京＝12年大会の成果と課題

成熟都市が舞台となった2012年ロンドン五輪・パラリンピックは、おおむね成功例として位置づけられる。英国代表で世界と争えるような一線級の選手は競技力が向上。貧困地域だったロンドン市東部は新築の五輪公園を中心とした再開発によって生まれ変わり、一大商業地として現在も経済効果をもたらしている。

英国は04年アテネ五輪で金メダル9個だったが、05年に五輪招致が決まると強化が進み、ロンドン五輪は世界3位の29個を獲得。16年リオデジャネイロ五輪ではトップの米国に次ぐ27個を手にし、スポーツ大国としての立場を確かなものにした。東京五輪では、再び世界2位を目指す。

躍進の背景にあるのが「選択と集中」による戦略的な強化策。1997年創立の政府組織「UKスポーツ」が自転車やボート、競泳などメダルが有望な競技へ支援金を分配し、強化や選手発掘に力を入れた。個人に対する支援制度もあり、五輪やパラリンピックでメダルを獲得した選手には最高で年間2万8000ポンド（約420万円）を支給する。

競技環境の面では、企業からのサポートも大きい。英政府はロンドン五輪の期間中、外国から多くのビジネスマンを招いて全国で投資関連のイベントを開催した。これにつながりが生まれ、英企業は14年ソチ冬季五輪やサッカー・ワールドカップ（W杯）などの大規模な国際大会に関連した多くの契約を獲得し、スポーツ界に相乗効果をもたらしているという。



ロンドン五輪・パラリンピックに出場した選手のパレードに集まった人々。英国旗を手に祝福した＝2012年9月10日、ロンドン

UKスポーツの広報担当者は、「東京五輪やそれ以降も英国は成功し続けるだろう」と自信を示す。しかし、国内の競技人口が多いにもかかわらず十分な支援金がもらえないバドミントンやバスケットボールなどの団体からは、「スポーツ界の格差を広げる」との反発も出ている。一部のエリートを強化するやり方は、全体の先細りにつながるとも指摘されている。

肥満問題への対策も含め、政府は12年の五輪開催を機に国内のスポーツ実施率を高めようとしたが、十分な成果は得られなかった。近年は10～20代で減少傾向にあり、障害者スポーツ実施率の伸び悩みとともに新たな課題に。こういった側面からも、東京大会は学ぶべきことが少なくない。

◇メダルゼロ種目の強化策＝リオ雪辱へ新たな試み

昨年のリオデジャネイロ五輪で期待されながらメダルに届かなかった競技団体にとって、東京五輪は雪辱の場となる。それぞれの強化策を探った。

アーチェリーは2012年ロンドン五輪の男子個人で古川高晴（近大職）が銀、女子団体が銅メダルを獲得したが、リオ五輪では男女とも表彰台に立てなかった。今年4月には初の外国人コーチとして韓国人の金相勲（46）、尹恵善（33）の両氏が就任。全日本アーチェリー連盟の新海輝夫強化部長は「（日本人との）一番の違いは道具の取り扱い。いろいろと研究している。韓国には多くの情報が集まってくるし、それをいち早く取り入れることができれば」と強豪国のノウハウを吸収しようとしている。

トライアスロン日本代表のヘッドコーチに就任したカナダ出身のパトリック・ケリー氏（中央）（日本トライアスロン連合提供）



トライアスロンも、カナダ出身で同国代表などを指導した経歴を持つパトリック・ケリー氏（59）をヘッドコーチに迎えた。世界シリーズでは日本選手が表彰台に立つこともあるが、08年北京五輪の女子で井出樹里（スポーツクラブNAS）が5位に入ってから、五輪では入賞からも遠ざかっている。日本トライアスロン連合の中山俊行五輪対策チームリーダーは「同じことを教えるにしても、持っている引き出しの数が違う」と指導者の経験値に期待する。

日本ライフル射撃協会では、リオ五輪で全種目予選敗退の結果を受け初めて長期の海外合宿を開始。欧州各国や韓国など強豪国の施設を利用して強化を進めている。田村恒彦専務理事は「海外の一流選手と練習して、世界での立ち位置をはっきり感じてもらう。意識改革が大事」と意図を説く。

日本馬術連盟は東京五輪をメダルの最大のチャンスと位置づける。これまでは選手個人が馬を所有していたが、連盟が8頭を購入して選手に貸し出す方式を可能にした。木口明信専務理事は「馬の強化も大事。大会に続けて出ると馬も消耗するので、選手1人が同じレベルの3頭ぐらいを替えながら乗るのが理想的」と支援態勢を整える。

競技団体の枠にとらわれない試みもスタートしている。自転車のトラック種目では、ロンドン五輪代表の新田祐大（31）が中心となってチームを組み、日本自転車競技連盟の派遣する日本代表とは別に国際大会に参加。独自に活動資金を集めながら競技力の向上を目指している。（

天皇、皇后両陛下がロボットを見学



読売新聞 2017年10月28日
歩行アシスト装置を装着した男性の話をお聞きになる天皇、皇后両陛下（28日午後、北九州市八幡西区で）＝代表撮影

福岡県を訪問中の天皇、皇后両陛下は28日、産業用ロボットメーカー安川電機（北九州市）の見学・体験施設「安川電機みらい館」を訪ねられた。

両陛下は脊髄を損傷した障害者用の歩行補助装置や、組み立てライン用のロボットを見学。陛下は「これからも技術が進歩していくといいですね」と話されていた。両陛下は29日、宗像市で開かれ

ている第37回全国豊かな海づくり大会に出席される。

車いすバスケットを観戦 皇太子さま、障害スポ大会

共同通信 2017年10月28日

全国障害者スポーツ大会の開会に合わせ、愛媛県に滞在中の皇太子さまは28日午後、今治市の市営中央体育館で、車いすバスケットボールの競技を観戦された。

皇太子さまは、仙台市と岡山県の試合を観戦。選手たちが巧みに車いすを操る熱戦を見つめ、得点が入ると「うまい」とつぶやき、拍手を送られた。29日は伊予市に移動。バレーボールの競技を観戦し、同日夕に空路で帰京される。

愛媛で全国障害者スポ大会開幕 ジャベリックスロー男子で妻木V



山陽新聞 2017年10月28日
開会式で堂々とした行進を見せる岡山県選手団＝ニンジニアスタジアム

第17回全国障害者スポーツ大会「2017愛顔（えがお）つなぐえひめ大会」は28日、愛媛県で開幕し、岡山勢は陸上の肢体不自由者2部ジャベリックスローで男子の妻木和正、女子の太田真知子が頂点に立った。水泳男子は視覚障害者2部の浜田裕之、肢体不自由者2部の片岡利夫がいずれも25メートルの自由形と平泳ぎで2冠を獲得し、肢体不自由者女子2部の安田美由紀も25メートル自由形で優勝。フライングディスクの男子はアキュラシー・ディスクリート5で白井弘和、アキュラシー・ディスクリート7で長田浩揮がともに金メダルを獲得した。バスケットボール女子（知的障害者）は1回戦で長崎に57―50で競り勝ち、4強入りした。

岡山、広島勢はつらつ行進

開会式は松山市のニンジニアスタジアムで皇太子さまをお迎えして行われた。あいにくの雨模様となったが、岡山、広島勢は約6100人の観衆が見守る中、はつらつと行進した。

47都道府県と20政令市の計67選手団が南から順に入場した。18番目に登場した岡山県選手団29人は陸上の安藤久志選手を旗手に、県のマスコットキャラクター・ももっちゃんなどをあしらった小旗を振りながらトラックを進んだ。続いて岡山市選手団29人が卓球の縄田聖矢選手を先頭に力強く行進。広島県、広島市選手団も元気よく歩き、スタンドの拍手や声援に応えた。

雨でも笑顔 堂々行進 読売新聞 2017年10月29日 開会式で、雨の中を堂々と行進する県選手団（松山市で）

◇皇太子さま迎え開会式

皇太子さまをお招きし、28日に開幕した第17回全国障害者スポーツ大会（愛顔つなぐえひめ大会）。県総合運動公園陸上競技場（松山市）で行われた開会式で、全国から集まった選手団のうち約1900人が入場行進した。あいにくの悪天候の中、堂々と行進する姿に約1万人の観衆からしきりに拍手が送られていた。この日から早速、陸上競技や水泳、卓球などで熱戦が繰り広げられた。（大谷雄一、水谷弘樹）



開会式で、県選手団は47都道府県、政令市の最後に登場。旗手を務める伊関創史選手（陸上競技）を先頭に、約70人がオレンジのタオルを振って行進した。

その後、大会会長の中村知事は「感動や夢、希望でつながる、『愛顔』あふれる、素晴らしい大会となることを祈念する」と述べ、開会を宣言した。

皇太子さまは、にこやかに手を振り、選手団の入場を迎え、「大会に参加された皆さんの中から、3年後の東京パラリンピックに向けて、力強く羽ばたく選手が数多く誕生することを期待しています」とあいさつされた。

炬火の点火式では、えひめ国体から引き継いだ炬火を、リオデジャネイロ・パラリンピック柔道女子57キロ級の銅メダリスト・広瀬順子さんと、同男子90キロ級出場の悠さんの夫妻が第1走者として運び、県選手団の4人へとつないで炬火台に点火された。

選手宣誓では、ともに陸上競技に出場する池田斉選手と谷岡真帆選手が並び、谷岡選手は手話を交えながら、「日頃の練習の成果を力強く発揮し、笑顔で精いっぱい競技することを誓います」と力強く語っていた。

開会式後、池田選手は「無事に宣誓を終えてほっとした。昨年の大会は出場できず、1年間トレーニングを頑張ってきた。競技では大会新を狙いたい」と意気込み、谷岡選手は「支えてくれた人たちに恩返しができるよう頑張りたい」と抱負を述べた。

炬火走者を務めた井上聡選手（陸上競技）は「雨で滑って車椅子がこけないか心配したが、無事走れてよかった。競技（100メートルなど）では、自己ベストを目指し、東京パラリンピックに向けてアピールしたい」と意気込んでいた。

県勢 笑顔で行進 障害者スポ大会開幕 愛媛



琉球新報 2017年10月29日
笑顔で入場する県勢選手ら＝28日、愛媛県松山市の愛媛県総合運動公園

【松山市で宮城美和】「第17回全国障害者スポーツ大会」（愛顔（えがお）つなぐえひめ大会）が28日、愛媛県松山市の愛媛県総合運動公園で開幕した。雨の中で行われた開会式に、1番手で入場した県選手団は笑顔で観客に手を振った。大会には各都道府県と20の政令都市を合わせた67の選

手団、約5500人の選手が出場し、30日まで熱戦を繰り広げる。県内からの選手50人は8つの競技に出場する。

聴覚障がいがあり、陸上100メートル走と200メートル走に出場する仲原善太郎さん（22）が県勢の旗手を務めた。

仲原さんは「旗手を務めると知った時から緊張していたが、いざ入場すると『わくわく』に気持ちが変わった」と話し、開会式を楽しんだ様子。「初出場の大会だけど、楽しみたい」と意気込みを語った。

大会のテーマとなっている「君は風 いしづちを駆け 瀬戸に舞え」には参加者全員が愛媛を駆ける風のように舞い輝けとの思いが込められている。

福井大会向け雨中笑顔で堂々行進 愛媛で全国障害者スポーツ大会開幕



福井新聞 2017年10月29日
全国障害者スポーツ大会の総合開会式で入場行進する福井県選手団＝28日、松山市の愛媛県総合運動公園陸上競技場

第17回全国障害者スポーツ大会「2017愛顔（えがお）つなぐえひめ大会」は28日、松山市の愛媛県総合運動公園陸上競技場で開会式を行い、3日間にわたる祭典が開幕した。福井県選手団の選手や役員約30人は雨の中を堂々と入場行進。1年後の福井しあわせ元気大会に

向け飛躍を誓った。

オープニングプログラムに続き、各都道府県と政令指定都市の選手団が南から順に入場した。福井県は、旗手の山田哲也選手（26）＝福井市＝を先頭に39番目に登場。「来年は福井で」と呼び掛ける横断幕と、大会マスコット「はぴりゅう」が描かれた小旗を手に、会場の声援に笑顔で応えた。

開会式前、会場付近で激励会を行い、藤田穰副知事が「来年の弾みとなるようベストを

尽くし、交流も楽しんで記憶に残る大会にしよう」と激励。ガンバロー三唱し、士気を高めた。

大会は30日まで、個人と団体合わせて13の正式競技が行われ、実力を競い合う。県勢はこのうち個人6競技と団体1競技に挑む。



障スポ大会第1日 県勢好発進「金」17

愛媛新聞 2017年10月28日

水泳(肢体不自由)女子25メートル平泳ぎと自由形で優勝した妻鳥和恵=アクアパレットまつやま 第17回全国障害者スポーツ大会「愛顔(えがお)つなぐえひめ大会」第1日は28日、愛媛県松山市の県総合運動公園ニンジニアスタジアムなど県内各地で11の正式競技と二つのオープン競技を行い、愛媛勢は陸上、水泳、フライングディスクで金メダル計17個を獲得した。

水泳(肢体不自由)の女子25メートル平泳ぎで妻鳥和恵が大会新をマーク。同自由形(区分15)と合わせて2冠を達成した。同自由形(区分12)で丹波久美子が大会新をマークして優勝。同(視覚障害)の佐々木一明も男子

25メートル平泳ぎと自由形で1位になった。陸上(肢体不自由)ジャベリックスローの池田斉は大会記録を更新し頂点に立った。

競技別で金メダルの内訳は陸上8、水泳6、フライングディスク3。

28日の金メダル獲得者は次の皆さん。

【陸上】武智湧史、竹本圭佑、岩城一弘、佐伯幸男、毛利淳一、池田斉、茂元愛美、藤田朱音【水泳】丹波久美子、妻鳥和恵、佐々木一明、塩出秀男【フライングディスク】安井幸重、松浦研二、米田清作

障害者乗馬の普及に協力を NPOが県に要望

中日新聞 2017年10月29日 岐阜

障害者の乗馬向けの馬で乗り心地を体験する県職員ら=県庁で



乗馬を障害者の癒やしや健康づくりに役立ててもらおうと、横浜市のNPO法人「青い風牧場馬とふれあう会」が二十七日に県庁を訪れ、普及活動への協力を県に要望した。

障害者の乗馬は、車いすなどで経験できない高い視点や自由な動きを体験でき、達成感や自信も得られるという。欧州などでは広く普及し、英国のアン王女が総裁を務める障害者乗馬協会(RDA)の傘下団体が日本にも多くある。

県内では笠松町で、RDA傘下団体の設立の動きがある。だが、十分に知られていないことから、今回は「ふれあう会」の中田順寿会長らが、普通の乗馬向けよりやや小さい二頭を連れて県庁を訪問。県障害福祉課の各務辰也・障害福祉基盤整備企画監に要望書を手渡した。県職員らの乗馬体験もあった。

RDA傘下団体は、さまざまな障害に対応して乗馬の補助をするスタッフをそろえ、医師の許可があれば、気軽に楽しめるという。「ふれあう会」は三十日まで、高山市や飛騨市でも啓発活動をする。(鈴木智行)

障害者のこと知って 来月1日 多摩市民館「歌フェス&映画上映会」



東京新聞 2017年10月29日
ゲスト出演する「歌正」の有友正隆さん(左)

障害者をメンバーに含む合奏や合唱のグループ三組が出演する「歌フェス&映画上映会」が十一月一日、川崎市多摩区の大森市民館で開かれる。NPO法人療育ねっとわーく川崎の開催。これまでは映画の上映会だったが、障害者の存在を知ってほしいとの思いから、三施設のグループが一緒に歌ったり、演奏を披露することになった。(山本哲正)

フェスには、同法人が多摩区で運営する障害者支援施設「ライブ・ライフ・ハウス・ロンド」を利用する重度心身障害者のグループ、同法人運営の地域活動支援センター「GDPかわさき」のスタッフや障害者でつくるバンド、市の身体障害者療護施設「れいんぼう川崎」(宮前区)の利用者でつくるグループが出演する。

「ライブ・ライフ・ハウス・ロンド」のグループは昨年の春から練習に取り組んできた。利用者らは車いすを押してもらって施設の活動室に集まり、講師の音楽療法士鈴木麻依さん(40)から指導を受けるなどしている。鈴木さんがキーボードを弾いて歌うと、歌える人は声を合わせ、そうでない人は腕を振って喜びを表現する。シンバルやタンバリンなどの練習もしている。

歌フェスには、同法人職員の有友正隆さんがボーカルとギターを務めるロックデュオ「歌正(うたまさ)」もゲスト出演する。

上映される映画はドキュメンタリー二本。障害がある子どもを育てる夫婦などを通して家族の絆を描く「うまれる」と、児童施設の子どもや周囲の大人たちの姿を追った「さよならきたらええやん」。

歌フェス&映画上映会は当日午前10時45分～午後8時15分。午前10時開場。前半が歌フェスで、トークショーもある。入場無料。先着九百人まで。

問い合わせは、主催の療育ねっとわーく川崎＝電044(930)0160＝へ。

えほん文庫 10周年 「安心して交流、担い手に」 来月25日、記念コンサート 浜松 / 静岡

毎日新聞 2017年10月28日

地域の人らに絵本を通じて交流してもらおうと、浜松市北区三方原町の太田由実さん(52)は、自宅の一部を開放して絵本を無料で貸し出す「えほん文庫」を主宰している。11月に開館して10周年になるのを記念して、11月25日に市楽器博物館(中区)でコンサートを開く。

太田さんは、朗読や一人芝居をしていたことがあり、朗読ができるホールのある家を夢見ていた。子育てなどで夢は実現していなかったが、自宅新築を機に絵本に親しんでもらいつつ交流できる場を設けることに。2007年11月、「えほん文庫」が開館した。

子どもへの体罰防ぐシンポジウム 各国で法整備を NHKニュース 2017年10月29日

世界各地で深刻な問題となっている子どもに対する体罰をいかに防ぐかを考えるシンポジウムが28日、都内で開かれ、日本を含め各国で法整備を急ぐ必要性が訴えられました。

子どもの支援を行うNGO「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」が28日に都内で開いたシンポジウムには、およそ170人が参加しました。

子どもに対する親の体罰は、先進国を中心に深刻な問題として認識されるようになっており、いかに実態を把握し防いでいくかが課題となっています。

シンポジウムでは、これまでに北欧などを中心に53か国で体罰を全面的に禁止する法律が整備されたことや、南アフリカの最高裁判所が親がしつけで子どもに暴力を振るうことを認めない判決を言い渡したことが紹介されました。

一方でNGOがことし7月に国内で行った意識調査の結果が報告され、体罰をすべきでないと感じた人はおよそ4割にとどまり、7割の親はしつけの一環として子どもをたたいたことがあると回答したということです。

日本では、昨年度に全国の児童相談所が対応した虐待の件数が過去最多の12万件余りに上り、体罰も多様化して防止するのが難しくなっているとされています。

国連の子どもの権利委員会で委員を務める大谷美紀子弁護士は「社会ではこれまで体罰を容認する考えが広く受け継がれてきた。体罰を無くすには、国がまず法律で禁止する必要がある」と述べ、法整備を急ぐ必要性を訴えました。

(社説) 指導死 教室を地獄にしない

朝日新聞 2017年10月29日

子どもたちの可能性を伸ばすべき学校が、逆に未来を奪う。そんな過ちを、これ以上くり返してはならない。

教師のいきすぎた指導が生徒を死に追いやる。遺族たちはそれを「指導死」と呼ぶ。

福井県の中学校で今年3月、2年生の男子生徒が自死した。宿題の提出や生徒会活動の準備の遅れを、何度も強く叱られた末のことだった。

有識者による調査報告書を読むと、学校側の対応には明らかに大きな問題があった。

周囲が身震いするほど大声でどなる。副会長としてがんばっていた生徒会活動を「辞めてもいいよ」と突き放す。担任と副担任の双方が叱責(しっせき)一辺倒で、励まし役がいなかった。

生徒は逃げ場を失った。どれだけ自尊心を踏みにじられ、無力感にさいなまれたらう。

管理職や同僚の教員は、うすうす問題に気づきながら、自ら進んで解決に動かなかった。肝心な情報の共有も欠いていた。追いつめられた生徒が過呼吸状態になっても、「早退したい」と保健室を訪ねても、校長らに報告は届かなかった。

生徒が身を置いていたのは、教室という名の地獄だったというほかない。

だがこうしたゆがみは、この学校特有の問題ではない。「指導死」親の会などによると、この約30年間で、報道で確認できるだけで未遂9件を含めて約70件の指導死があり、いくつかの共通点があるという。

本人に事実を確かめたり、言い分を聞いたりする手続きを踏まない。長い時間拘束する。複数で取り囲んで問い詰める。冤罪(えんざい)を生む取調室さながらだ。

大半は、身体ではなく言葉による心への暴力だ。それは、教師ならだれでも加害者になりうることを物語る。

文部科学省や各教育委員会は教員研修などを通じて、他の学校や地域にも事例を周知し、教訓の共有を図るべきだ。

その際、遺族の理解を得る必要があるのは言うまでもない。調査報告書には、通常、被害生徒の名誉やプライバシーにかかわる要素が含まれる。遺族の声にしっかり耳を傾け、信頼関係を築くことが不可欠だ。

文科省は、いじめを始めとする様々な問題に対応するため、スクールロイヤー(学校弁護士)の導入を検討している。

求められるのは、学校の防波堤になることではない。家庭・地域と学校現場とを結ぶ架け橋としての役割だ。事実を迫り、それに基づいて、最良の解決策を探ることに徹してほしい。

